

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年11月30日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675300240
法人名	医療法人 拓和会
事業所名	グループホームなでしこ
所在地	始良市東餅田428-1番地 0995-67-7230 (電話)
自己評価作成日	平成23年9月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/JigyosyoBasicPub.do">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/JigyosyoBasicPub.do</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成23年10月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体医療機関に隣接したグループホームであり、24時間医療連携体制が取れ重度化や終末期も健康管理ができ、利用者、家族は安心して生活を送って居られる。

広い庭園には季節の木々や花が植えられ利用者は静かな環境で、散歩や東屋でお茶を飲んだり、ゆっくり過ごして居られる。

全室南向きの居室は、掃き出し窓でテラスがあり自由に外に出られ、自由な暮らし、災害対策にもなっている。

各々持てる力を発揮して頂くために、「出来ること」は職員と一緒に出来ない、また、家族の協力も得ながら、昼間に2時間から3時間の帰宅送迎を行ない、家族で過ごす時間も大切にしながら、自立支援に向けて取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

血液透析等医療ニーズの高い利用者も数名入居しており、母体である医療機関の医師や看護師、管理栄養士の助言や協力を得ながら、健康面に配慮し、利用者と家族の希望に沿った支援に努めている。夜勤者は隣接する医療機関の朝礼に参加し、利用者の状況報告を行う等、健康管理に努めている。管理者をはじめ職員は、ミーティングの機会を大切に、情報の共有化に努め、細かいことも話し合い、アイデアや意見を出し合い、常に業務の見直しを行い、可能な限り利用者の要望に応えることができるように柔軟に対応することを心がけている。また、利用者の能力をできるだけ引き出せるように支援している。

担当制やリーダー制を導入し、職員一人ひとりが責任をもって利用者の生活支援を行っている。

同敷地内に母体の医療機関があり、秋祭りは合同で行い、地域の人々に参加を呼び掛け、地域に根差した医療福祉サービスの提供を心がけている。

管理者および職員は、常に質の高いケアの提供を心がけ、職員研修や資格取得など職員のスキルアップに力を注ぎ自己研鑽に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者が家族や地域との絆を大切に生き生きと暮らせる事を支えていく地域密着型サービスの役割を考えて理念を作り、理念の実践に取り組んでいる。	理念は、「家族・地域との絆」などの言葉を含み地域に根差したサービスを意識できる内容が盛り込まれている。理念を掲示するとともに、理念を意識した話し合いが日常的に行われ実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の運動会参加、地域の祭りに参加、誕生会等で地域の方が演芸のボランティアに来て下さったり、母体法人の秋祭りには地域住民の多くの参加があり交流をしている。	地域行事に参加し、地域との繋がりを大切にしている。また、ボランティアや看護学校等の実習生を受入れ、事業所自体が地域の一員としての役割を意識し、日常的に交流している。散歩など外出の際、出会う地域の方へ挨拶や声かけ等行い関係づくりに力を入れている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方が、認知症の方の支援の方法を相談に来られた時は、相談や、地域包括センターの紹介をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に住民代表、入居者、家族、行政、職員を交え開催し、日々の活動状況報告や意見交換を行い、入居者を支えていく目標でサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催され、家族の参加も多く、行政関係者や苦情相談員も参加している。利用者の状況報告や行事等の報告のみではなく、制度改正に関すること等、出席者の意見や助言をいただき、サービスの向上に活かしていることが議事録より確認できる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議議事録の提出などを通して、ホームの理解や協力が得られるようにしている。また、疑問点等担当者と連絡を取り、相談・助言を頂いている。	事務手続きやその他の機会に訪問し、サービス内容等についての相談や利用者の状況を報告し、情報交換や提案をいただいている。また、日頃から市町村との連絡や連携に努め、地域の資源を活用した事業運営に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ケア会議等で身体拘束廃止に関する職員の共通理解を図っている。センサーマットを活用するなどして安全面に配慮し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修会や事例検討会等を行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。利用者一人ひとりのニーズを把握し、ベッドからの転落の可能性の高い利用者には、アクションマットを使用している。外出希望の多い利用者には、安全面に配慮し外出の機会をつくるなど、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「高齢者虐待防止について」研修をし、職員の言葉使い、態度が虐待に繋がる可能性がある事を常に意識し、日々の介護で自らの行動を振り返り、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び理解をしている。活用する必要性のある方はいらっしやらない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前にホームを見て頂き、納得の上で契約を結んでいる。契約時は丁寧に説明し、理解・納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	「毎月の便り」、ご家族の訪問時は利用者、家族からも要望、意見を気軽に話してもらえるように、職員は訪室して話をしている。そこで出た意見は、会議で話し合い、家族の意見を反映させている。	重要事項説明書に相談窓口を記載するとともに、家族等の面会時は声かけを行い、家族が意見や要望を表しやすいような工夫と配慮が感じられる。職員が家族からの要望や苦情等を把握した時は相談内容を記録し、職員会議で話し合い、本人や家族に報告するなど速やかな解決を図っている	
11	あ	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は職員と一緒にケアをしているので、その中で職員の意見等聞く機会、把握ができており運営に反映している。	管理者は、職員が意見を言いやすいような雰囲気を心がけ、悩みがありそうな職員には個別面談を行うなど、職員の意見が反映できるように努力している。また、職員の意見や希望を取り入れながら、体調に配慮した勤務調整や、勤務内容の見直しなどを行っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務状況を把握し、研修等勤務内でうけられる体制である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会への参加や資格取得に向けた体制ができている。事前に勤務希望を聞き勤務配慮をし、研修や資格取得に向けた講習をうけられるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会のネットワークが出来ており、研修会参加等で職員の向上心も出ている。若い介護職員の交流、勉強会参加も活発に行われている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは安心して過ごして頂ける様に、ゆっくり時間をかけて訴えに耳を傾け、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っている事やこれまでの経緯、今後の要望等聞き、ご家族も安心して頂ける様、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いや状況等を確認し、必要な支援・相談をしていく中で、他のサービス利用も対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が「出来ること」は職員と一緒に言ったり、利用者から経験を活かした話を聞きケアに活かしている。夜勤の時、ねぎらいの言葉や励ましの言葉を掛けられる事が多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームの行事等ご家族の参加を呼び掛けている。本人の思い、家族の思いを受け止め、時には懸け橋になり、家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り支援、自治会の敬老会参加の支援、利用者の行きつけの美容室利用等馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者を支えてくれていた人間関係を把握し、関係を継続できるよう馴染みの人や場との関係性の継続の支援に取り組んでいる。面会、手紙や電話の支援、墓参りや馴染みの美容院への外出支援などを行っている。	
21		○利用者同士の関係支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合いを持つことが困難な方は、少しでも関わり合いが持てるよう職員が橋渡しをしたり、利用者同士トラブルになりかけた時は仲介に入り、コミュニケーションがうまく取れ孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた時は通夜、告別式に列席し本人の思い出を語り故人を偲んでいる。退居後のご家族が訪問して下さることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、また個別に時間を作りゆっくり話したり、ご家族からの情報等から利用者の思いや希望の把握に努め、個人本位に検討している。	日頃から利用者のご家族との関係を大切にし、利用者のご家族の声に耳を傾けている。衣服選びなど日常の支援は、利用者の好みや希望を確認し、家族の協力を得ながら対応している。利用者のできることを引き出せるような支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時、利用者、家族からこれまでの暮らしぶりをお聞きしたり、担当介護支援専門員等関係者からの情報も得ている。また、折に触れ、話をお聞きし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日3回のバイタルチェック、一人ひとりの一日の過ごし方、小さな気づきを職員間で報告し合い情報を共有し、「出来ること」に注目して支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族、医師、職員と話し合い、意見・希望等を聞いて作成している。ケアプラン実施チェックやモニタリングを毎月全職員で行い現状に即した介護計画、残存能力を尊重した介護計画を作成している。	利用者ごとに担当者を設け、利用者について把握している。職員はすべての利用者の介護計画を意識し介護を行い、毎日、その日のリーダーがケアプランに沿って評価を行っている。また、毎月、モニタリングを行い、ミーティングで気になる方について検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、水分摂取量、バイタルサインはフローシートに記録をしている。個別にファイルを作り、日々の暮らしぶりや様子、利用者の言葉等を記録し、介護計画の見直しに活かしている。記録に目を通したら捺印し情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健康管理や24時間医療連携を取り、医療ニーズの対応を行っている。他科受診時の付添、訪問歯科診療等、利用者の要望、必要性に応じたサービスを受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駐在所の方を運営推進会議に参加してもらったり、避難訓練は消防署、地域住民の協力を得て行っている。図書館から、本の貸し出しを受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	人工透析を受けている利用者は、病院との連絡帳で情報伝達をしている。他の方は月2回の定期受診をしている。他科受診もご家族と連絡を取り、受診支援を行い結果報告をしている。	血液透析等の医療ニーズの高い利用者が多く、本人や家族の意向を大切に、継続医療を支援している。夜勤者は、母体である医療機関の朝礼に参加し、状態報告をしている。また、毎日夕方に看護師が訪問し、健康管理を行っており、家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する病院と利用者の健康管理の為医療連携をとっており、月曜日から土曜日は看護師によるバイタルチェックを行っている。日ごろから看護師と相談し易い関係づくりも行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の希望をお聞きし、病院との連携を図り、早期退院に向けた働きかけをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に関わる指針、看取りについての指針をご家族に説明し、本人の意向、ご家族の意向を早い段階から把握し、最善の対応が出来るようにしており、ホームでの看取りも実施している。	重度化や看取りに対する指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。また、その後も必要に応じて本人や家族、かかりつけ医と相談し、情報を職員で共有している。母体病院と24時間体制で連携がとれ本人・家族の安心感につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒、喉の詰まり、意識喪失時の対応等緊急時に対応できるように消防署の協力を得て、心肺蘇生法、応急手当の講習を受けたり、医師より初期対応の仕方の指導を受け身に付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の協力を得て避難訓練を行っている。日頃より、通報の仕方、消火器の使い方を確認している。スプリンクラーの設置、災害時の食料備蓄も行っている。	避難訓練や消火訓練を年に2回行い、非常通報装置や災害時の飲用水や食料も備えている。非常災害に備え、地域自治会長に災害訓練への参加をお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症について理解を深め、利用者の誇り、プライバシーを損ねない言葉かけや穏やかな態度、静かな言葉かけや対応を心がけている。	玄関に個人情報の保護方針を掲示し利用者への日頃の声かけや対応について、ミーティングで話し合いながら対応している。居室にはすだれを利用し、ドアの開閉などプライバシーに配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうですか」と問いかけて自己決定をする場面を意識的に作ったり、コミュニケーションをとりながら表情等を感じとり、自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	充実した1日になるよう、個々のペースに応じた支援は何かを考え、希望に添えるよう、臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に応じた服装の支援、好みの服の購入等で身だしなみや清潔感が保てるように支援している。着たい服が選べるようにハンガーにかけおしゃれを楽しんでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、下ごしらえ、片づけ等で出来ることは一緒に行ない、食事への関心を深めていくとともに、楽しみながら食事ができるよう声かけをしている。介護食器を使う方も居られる。	菜園で野菜を作り旬の食材を利用し、下ごしらえや下膳を一緒に行っている。血液透析を受けている利用者が数名いるため、管理栄養士の助言を得ながら、一人ひとりの体調に応じて盛り付けや調理法、量に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の管理栄養士による献立である。食事量、水分量のチェックを確実にし確保できている。医師、栄養士と連携を取り、一人ひとりの状態にあった食事を提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回口腔ケアをしている。うがい等出来づらい方はガーゼで拭き、一人ひとりに応じた口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を見ながら、トイレの声かけ、誘導を行い、排泄の失敗が無いよう努めている。また夜間は、安心、安全の為に、ポータブルトイレを使用するなどして、排泄の自立に向けた支援をしている。	一人ひとりの生活リズムや排泄パターンに合わせ、トイレ誘導やさりげなく声をかけるなどの配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、排便チェックを行い、自然排便が出るように、体を動かす機会を設ける・水分補給の声かけ・腹部マッサージ等の働きかけをしている。個々に応じ下剤を服用している方も居られる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本は週3回の入浴である。透析者は入浴日が決まっているが、その他の方は、体調や、気分等に配慮してゆっくり楽しんで頂ける様、相談しながら臨機応変に入浴支援をしている。	一人ひとりの希望や体調に応じた入浴の支援をしている。利用者の希望により、入浴剤を使用し入浴を楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣に合わせた休息をとっている。散歩、程よい運動、気分転換を図り眠れるようにしている。室温調整、寝具調整、夜間の水分補給にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の各々の内服薬、副作用、用法や用量が分かるように「薬処方ファイル」を作り、全職員が把握できるようにしている。また病状変化にも気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で、自宅で行っていた家事、楽しみ事が継続できる支援をしている。色塗り、楽器演奏、書写、読書などの楽しみ事に取り組んだり、散歩、買い物等で気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	墓参り、買い物、季節ごとの花見、初詣は家族の同伴もあり、車での外出も楽しんで頂いている。利用者の希望を把握し、ご家族の協力により、外泊、外出もできている。	庭園が広く、テラスが設置され、車椅子を使用している利用者也利用できるように整備されている。天気の良い日は外気浴が行われている。また、本人の希望に応じて買い物、墓参り、帰宅支援など戸外に出かけられるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個々の能力に応じて、お金を所持して居られる方もいる。買い物時は自分で支払いをされる方等個々に合わせた支援をしている。訪問美容サービス時は全員自分で支払うようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族、友人との電話が出来るように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自然の光が入り、明るく広々とした居間からは、庭の花、畑の野菜、庭園の木々が眺められ季節を感じる事ができる。室内には季節の花を飾り、居心地良く、落ち着いた雰囲気を出せるような工夫をしている。</p>	<p>敷地が広く庭園には芝が植えられている。テラスや居室から見える景色は開放的で、とても気持ちよく、共有空間には観葉植物や花が飾られ、ゆったりとくつろぐことができるスペースが確保されている。リビングは日差しが差し込み明るく、心やすらぐ家庭的な雰囲気がただよ、居心地よい空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>窓辺にソファを置き、屋外は高いテント付きのテラスにテーブルと椅子を置き、外の風に吹かれながらゆっくりくつろげる場所がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの思い出の品や、使い慣れた物を置き、個性のある部屋作りをし、その人らしく過ごせるように配慮している。	居室の窓は広く、使い慣れた家具や寝具、写真、ぬいぐるみなどを持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリー、要所要所に手すりがあり、安全に自立した生活が送れる環境である。移動時は見守り、車いす自走の声かけを行ない、自立支援を心がけている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない